

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会

研修会記録

第5号

令和5年 11月 1日
横浜市小学校教育研究会
会長 濱田 哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

10月4日(水)

提案 菅原 大樹 先生(上末吉小)

【会場】

平沼小学校

司会 浅羽 颯太 先生(大正小)

記録 加藤 諒太 先生(永野小)

○提案者から

学習を通して児童の変容が見られ、学習前と比べ振り返りで思いや考えを書いてくれるようになった。反省点としては単元の指導の中で提示する資料の時系列が前後してしまうという場面もあったという点等。今回の提案では、歴史を学習した意味や学習計画・学習方法を子どもたちに振り返らせている。その手立てがどうであったかを検討したい。

視点①：「単元における個の自己決定と単元の振り返り」がどのような効果を生んだのかについて

視点②：社会的事象を理解するための授業後半での意図的発問

「御家人にとって武士はどのような存在だったのだろう」の効果について

視点①の協議

- ・単元の振り返りで人物に注目したことから、その生き方を生かそうとする振り返りにつながっている。学びの主体性を引き出すためにも良い手立てとなったのではないかな。
- ・人物に注目するために、多くの授業で人物を取り上げている。そのため、学習の中で出てきた児童の疑問が、社会的事象についてどんなものかに着目するだけでなく、より深い部分に迫る疑問が出て自己決定することができていた。

視点②の協議

- ・授業記録P.7の意図的発問の結果、御恩と奉公の関係を「信頼」とするのはどうか。会社に近い関係であり、信頼については承久の乱や北条政子の櫓が根拠になったのではないかと考えられる。この疑問は、本時の中で大きく取り上げて進んでいくことができたのではないかな。

効果的な発問であったかどうかについての授業者のみとり

- ・C児は、自分の中でストーリーを作り考えていたが、資料を見た時点で考えが変わった。鎌倉幕府との関係性を問うことで変容につながっていったのではないかな。

星川小学校 五十嵐 玲 校長先生より

武士が権力をもち政治を始めたということが社旗的に大きな事象であることを児童に伝える単元としたい。武士の政治が始まるとはどういうことかを児童に聞くことが必要である。御恩と奉公の関係は、その後の室町時代にかけての展開を考えるとあっさりとした関係であったと捉えられる。児童の短い発言が多かった。「でも・だって」と立ち止まりながら進めることで学習が活性化する。簡単に納得しない批判的思考をもつ児童を育てたい。

講師の先生より 本牧南小学校 副校長 杉山 ももこ 先生

本提案では、児童の疑問から単元を作成して行き、調べたいことから本気の学習問題につながるという展開や肖像画を書かせたり、現物を体験させたりするといった点が良い。自分で調べた後、学級での話し合いで考えを深めることが大切である。その点で見ると本時は児童が短い言葉で終わってしまっていた。学習中に問いかけ、考えの理由を話すことで深まっていく。児童の言葉でまとめさせると良い。通史を視える化することで承久の乱や元寇の前後関係が分かり、考えの拠り所になるのではないかと考える。歴史を学習した意味の振り返りは毎授業するのではなく、重要な時のみに振り替えることでより深い気付きがえられるのではないかな。授業作りの際は子どもをどのように変容させたいかを考えることが大切である。